

目 次 (事務棟)

§1.	一 般 事 項	P1
1-1	建 物 概 要	
1-2	設 計 方 針	
1-3	使 用 材 料	
1-4	荷重及び外力等の諸仮定	P2
1-5	材料の許容応力度	P3
1-6	構造伏図・軸組図	P5
1-7	仮定荷重	P20
§2.	スラブ・小梁の設計	P28
2-1	スラブの設計	
2-2	小梁の設計	P34
§3.	準 備 計 算	P40
3-1	柱の軸方向力	
3-2	地震力の計算	P68
3-3	各階せん断力	P81
§4.	応 力 算 定	P83
4-1	仮定部材の断面性能計算	
4-2	部材配置図	P148
4-3	INPUT DATA	P195
4-4	水平時応力	P238
4-5	鉛直荷重時応力	P285
§5.	梁・柱の断面算定	P328
5-1	断面耐力表	
5-2	大梁断面算定	P331
5-3	柱断面算定	P347
5-4	せん断力の検討	P389
§6.	耐震壁の検討	P402
6-1	壁耐力の算定	

§7.	地下部の設計	P405
7-1	地下壁の設計	
7-2	地下間柱の設計	P407
7-3	礎版の設計	P410
7-4	地中梁の設計	P411

§8.	基礎の設計	P420
8-1	杭の設計	
8-2	基礎用柱軸力表	P423
8-3	杭の水平抵抗の検討	P426
8-4	フーチングの設計	P442

§9	OUTPUT DATA	NO	(別冊)
10-1	各フレームバネ定数 OUTPUT DATA	NO	
10-2	地震時応力	NO	
10-3	鉛直時応力	NO	

一般事項

1. 建物概要

建築地

構造種別・階数及び用途

・RC S SRC

・地下 2階・地上 8階・塔屋 2階

・用途 庁舎（事務棟）

将来増築の有無（位置・階数等ハ図面参照）

・有・無

特殊荷重 ----- 柱軸方向ハ設備荷重一覽参照

・水槽

・クーリングタワー

・E.V.機械

・広告

・クレーン

階高・主要スパン

・x方向 3.05^m, 14.75, 3.05, 4.00, 3.05, 14.75, 3.05

・y方向 5.40, 5×6.0, 5.40

・階高 PH: 5.5, 5.0 : : :

2~8: 7×3.8 : : :

1: 6.0 : : :

B1: 3.8 : : :

B2: 6.0^m : : :

2. 設計方針 本建物の構造計算は日本建築学会各種計算規準および
新耐震設計法(案)に従って行う。

応力解析は電気公社のDEMOS-Eの各ライブラリーにより解析
基礎は杭基礎としGL-28.0mの砂礫層に支持させる。
詳細は別項参照

3. 使用材料・其ノ他（材料使用区分ハ構造図ニヨル）

・コンクリート（設計4週圧縮強度）

NC= 240

LC= 210（第2種軽量コンクリート）

・鉄筋 SR-24 SD-30 SD-35 SD-40

・鉄骨 SS-41 STK-41 SM-41 SM-50A SSC-41 SPN-1

~~リベット SV-41~~・H. T. B. F10 T 沁り係数 $\mu=0.45$

・支持層 砂石層(N=50)・層厚 5.0 m 以上

・地耐力 200 T/M²(長期)以下(杭先端)

・杭耐力 T/pile(長期) 杭種場所打杭杭長 18.0 m 杭径

1-4 荷重及び外力等の仮定

	項 目	適 用 事 項
a.	地震力	弾性設計…バースシャ-係数 ($C_0=0.25$) より屈せん断力を算定する。 (S55 7/14 政令第196号による改正建築基準法施行令第88条)
b.	風荷重	設計用速度圧 $q=q_0 \cdot z_w \cdot L \cdot I$ 高さ $h=0 \sim 10^m$ $q_0=120E$ $h=10 \sim 30$ $120E + 8(h-10)$ $h=30 \sim 230$ $120E + 160 + (h-30)(340-120E) \checkmark 0$ $z_w=0.85$ $E=1.2$ $L=0.9$ (受圧面長さ 20^m)
c.	雪荷重	最深積雪量 30^m
d.	地下水位	設計 GL-4.5 ^m
e.	土圧係数	$K_a=0.5$

部 位	仕 上 げ
屋 根	アスファルト防水 コンクリート押工
外 壁	2丁掛 特焼タイル 打込み
内 壁	モルタル下地 ビニール壁紙貼
一般床	コンクリートスラブ直均シビニール貼